

郊外市街地における住環境の持続性評価とコミュニティ形成の課題

佐賀大学理工学部 ○学生会員 高田 真喜
 佐賀大学理工学部 正会員 外尾 一則
 佐賀大学低平地研究センター 正会員 猪八重 拓郎
 佐賀大学低平地研究センター 正会員 永家 忠司

研究の背景

日本の都市開発は急速に進展してきた。その中でも近年は地方都市の郊外開発が目覚ましい発展を遂げてきた。その背景には、モータリゼーションの発展や、道路網の整備によって、病院などの社会資本整備の郊外移転、大型ショッピングセンターの郊外展開などがあげられる。またそれに伴い、大規模な住宅開発も進み、都市の機能が郊外に移動しつつある。そのような大規模な住宅開発によって形成された郊外市街地には開発質や人口減少社会を迎える将来において持続性という面での問題も潜んでいる。また郊外都市におけるコミュニティは開発自体が比較的近年のため、ここ 5 年から 10 年の短期間に形成されていることが多い。それによって、既成市街地や既存集落と比べるとコミュニティが未熟であり、あるいは未形成である可能性が考えられる。本研究では、コミュニティの形成とその活動に焦点をおき、それによって将来的に持続していける郊外市街地としての可能性や課題を考えていく。

研究の目的

- 1、人口増減と郊外開発の関連性を知る。
- 2、郊外開発の開発視点を知る。
- 3、対象地区の開発の特徴を知る。
- 4、郊外部のコミュニティ形成を知る。

この 4 点を踏まえ、郊外市街地が「持続可能な都市」として機能していくことが可能であるのかという住環境の持続性を考察する。また、郊外市街地でのコミュニティがどのように形成されているのかを把握、考察する。

研究の方法

- 1、郊外市街地の人口特性（人口増加のパターン、年齢属性）を GIS にて整理する。
- 2、人口特性を用いて、対象地区を選定する。
- 3、対象地区の開発プロセスを把握する。（特に大規模開発の影響に着目）
- 4、対象地区における集落との関係、田園住宅地としての特性（規模の大きさなど）を考察する。
- 5、住環境評価、持続性の課題およびコミュニティの形成についてヒアリング調査を行い、郊外市街地の持続性の課題、特にコミュニティ分断の問題点を把握する。

研究の成果

1. 既成市街地と郊外市街地の合計人口の比較

	佐賀	鳥栖	基山	唐津	小城	伊万里	武雄	鹿島
既成市街地	↓	↓	—	↓	—	—	—	↓
郊外市街地	↑	↑	↑↑	↑	↑	—	↑	↑↓

表 3. 1 地区別・既成市街地と郊外市街地の合計人口の変化

- 佐賀・唐津・鳥栖：既成市街地は減少傾向、郊外市街地は増加傾向。
- 基山：既成市街地は変化が少なく、郊外市街地は急成長。
- 小城・武雄：既成市街地は変化が少なく、郊外市街地は緩やかに増加傾向。

- 伊万里：既成市街地は変化が少なく、郊外市街地も変化は少ない。
- 鹿島：既成市街地は年々減少傾向。郊外市街地は一時期増加し、現在は減少傾向。

2. メッシュ図による時系列での市街地変動の視覚的な考察

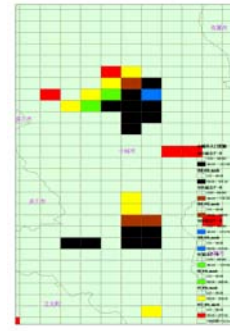
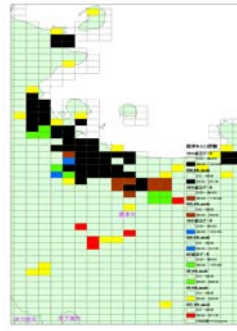
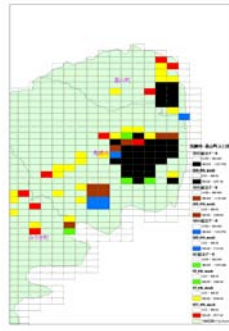
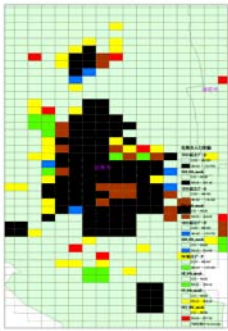


図3. 2-1 佐賀市

図3. 2-2 鳥栖市・基山町

図3. 2-3 唐津市

図3. 2-4 小城市

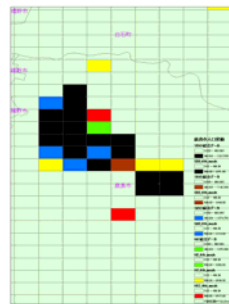
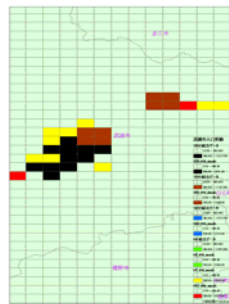
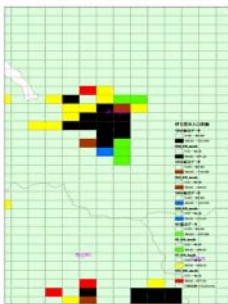


図3. 2-5 伊万里市

図3. 2-6 武雄市

図3. 2-7 鹿島市

- 佐賀：H7年の市街地増加が目立つ。既成市街地より同心円状に拡大している。（大和、鍋島周辺）
- 鳥栖：H7年の市街地増加が目立つ。既成市街地から西部に帯状に拡大している。（長崎自動車道に沿う形で）
- 基山：H7年の市街地増加が目立つ。既成市街地から北部に固まって拡大している。（九州自動車道周辺）
- 唐津：平成に入ってから増加が目立つ。H2年には既成市街地の北西部と南東部に固まって拡大しているのが見られ、H7年には固まらず点在して拡大している。
- 小城：平成に入ってから増加が目立つ。H2年、H7年には既成市街地の北西部に拡大、H12年には既成市街地から離れた南東部（三日月）に新たに市街地が形成されている。
- 伊万里：H2年には既成市街地から南部に拡大、H7年には北西部に拡大している。
- 武雄：S50年からS55年までにまとまって拡大その後、H7年からH12年に北部に拡大している。
- 鹿島：S60年での拡大が目立つ。

3. 郊外開発地区のケーススタディ

基山町けやき台・鳥栖市江島町青葉台・小城市三日月町を選定する。前2地区は民間による計画的な大規模開発地区である。後者は都市計画区域外にあって条里制の伝統を持つ田園の中に個別開発によって形成された分散的な開発地区である。

この3地区に共通していることは近年開発が進み、人口増加が目覚しく増加したことである。

大規模開発地区においては行政主導によるコミュニティの形成が見られた。一方三日月地区においては、既存集落を核とする新コミュニティの形成が見られ、かつこれらのコミュニティを連携するまちづくりのNPO組織の発展的な形成も見られる。

今後は、対象地区でアンケート調査を行い、持続性に関わる住環境やコミュニティ活動の課題を把握する。